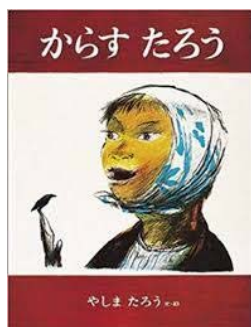


新井中央小だより

ホームページ <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/araich-s/otayori/index.html> No.243メールアドレス chuou@ac.city.myoko.niigata.jp 2019（令和元）年11月29日

からすたろう

本を読むのが好きです。市教委勤務時代は、昼休み1時間の内、前半でお弁当、後半20分位を読書の時間としていました。市役所5階のラウンジで、窓辺の椅子に座り、妙高の山々を眺めながら、食後のコーヒーと、読書を楽しむ。（BGMは、テラースウィフト）北欧で言うところの「ヒュッゲ」な時間でしょうか……。読書は、人生を豊かにしてくれます。



好きな本を1冊紹介します。絵本です。題名は「からすたろう」（作者：八島太郎）。ある村の小学校に一人の男の子が入学しました。この子は、先生をこわがって、なにひとつ覚えることができません。クラスの子どもたちとも、ちっとも友達になりませんでした。休み時間にも一人、のけものにされていました。この子は一人の時間を楽しむやり方を次々に見つけ出しました。季節、自然をじっと観察すること。たいていの子が大嫌いなムカデやイモムシを捕まえて、じっと眺めたりすることができました。よそのクラスの年上や年下の子どもまでこの子をばかにしました。でも、この子は、遠くの山の家から、くる日も、くる日も、とぼとぼとやって来ました。雨やあらしの日も、とぼとぼとやって来ました。

5年間で過ぎ、最上級生の6年生になりました。新しい担任の先生になりました。先生は、にこにこして親しみやすい人でした。学校の裏の丘の上に、よく子どもたちを連れて行きました。この子が野ブドウやヤマイモのあるところをよく知っているので、先生はごきげんでした。クラスの花壇作りをする時も、この子が花のことをよく知っているので、先生は感心しました。先生は、この子の描いた白黒の絵が好きで、みんなに見せるために壁に貼り出しました。この子しか読めないような習字でも、壁に貼り出しました。時々、先生は、周りに誰もいない時、ちびと二人だけで話をするすることがありました。

その年の学芸会の舞台にこの子が現れた時、だれもが驚きました。「あの子が、何をするんだろう？」この子は、「からすの鳴きまね」を発表しました。卵からかえったばかりの赤ちゃんがらすの鳴きまね。母さんがらすの鳴きまね。父さんがらすの鳴きまね。朝早くの鳴きまね。むらの人に不幸があった時の鳴きまね。嬉しくて楽しい時の鳴きまね。聴いている誰の心も、この子が毎日通ってくる遠い山の方に連れてゆかれました。

おしまいに、一本の古い木にとまっているからすをまねて、この子は特別の声を出しました。「カアウ ワアツ！ カワウ ワアツ！」今度は、誰も彼も、この子が住んでいる、遠くてさみしい所をはっきりと想像することができました。そこで、先生は、この子がなぜ出来るようになったかを説明しました。日の出とともに家を出て、日没、家に帰り着きながら……。毎日、毎日、6年もの間……。子どもたちは、その長い間、この子にどんなにつらくあたったかを思い出して、泣きました。地域の人たちも、「そうだ、そうだ、あの子はたいしたもんだ。」と言いながら、涙を拭きました。……というお話です。

この本は、以前勤務した学校で、お別れに地域の方から「ぜひ、読んでください。」といただいた本です。私は、この本を読んで、「一人一人のちがいを応援する先に未来がある。」という気持ちを強くしています。一人一人のちがいを、その子らしさを大切に、その子のよさを応援して伸ばしていけたらと考えています。本校の学習センターにもこの本があります。機会があったら、手にとっていただければと思います。

校長 加藤 晃